

経済統計 練習問題

第9回 労働に関する統計(1)

2018年10月24日

問1 以下の文章を完成させよ。

経済活動人口をはかる方法には2種類の方法がある。

1つは特定の期間に少しでも仕事をした人および求職活動をしたをとらえるもので、_____方式といわれる。

もう1つは通常の状態として仕事をしているをとらえるもので、_____方式といわれる。

労働力人口を15歳以上人口で割ったものが_____である。これを女子について年齢階級別にグラフを書くと_____といわれる形をしている。

完全失業率は、完全失業者数を労働力人口で割ったものである。完全失業者とは

であり、2018年8月現在の日本の完全失業率は{(a) 2.4% (b) 3.4% (c) 4.4%}である。

問2 次の表は、総務省「労働力調査」(昭和50年,平成12年,平成22年)の女性の年齢階級別労働力人口比率(労働力率)である。この表に関して、下の①~⑤のうちから、適切でない説明を一つ選びなさい。

年齢階級別労働力率(女性)の推移
単位: %

年齢階級	1975年	2000年	2010年
15~19歳	21.7	16.6	15.9
20~24	66.2	72.7	69.4
25~29	42.6	69.9	77.1
30~34	43.9	57.1	67.8
35~39	54.0	61.4	66.2
40~44	59.9	69.3	71.6
45~49	61.5	71.8	75.8
50~54	57.8	68.2	72.8
55~59	48.8	58.7	63.3
60~64	38.0	39.5	45.7
65歳以上	15.3	14.4	13.3

資料: 総務省「労働力調査」(昭和50年,平成12年,平成22年)

- ① 女性の年齢と労働力率の関係は、横軸に年齢、縦軸に労働力率をとって折れ線グラフを作ったときの形状から、M字型と呼ばれる。
- ② 各調査年とも20歳代前半に比べて、20歳代後半、30歳代前半、30歳代後半の年齢階級で労働力率が低下している年齢階級があるが、その3つのうちで最も低い労働力率を示す年齢階級の年齢は、調査年を追うごとに高くなっている。
- ③ 各調査年とも20歳代前半に比べて、20歳代後半、30歳代前半、30歳代後半の年齢階級で労働力率が低下している年齢階級があるが、その主な理由は、婚姻、出産に伴う離職等である。
- ④ 25歳～64歳では、いずれの年齢階級でも、調査年を追うごとに労働力率は高くなっている。
- ⑤ 15歳～19歳、20歳～24歳では、大学進学率の上昇を反映して、労働力率は調査年を追うごとに低下している。

問3 下の表は、総務省「労働力調査」の平成22年と平成27年の結果を抜粋したものである。

	就業者数(万人)				
	男女計	男	男	女	女
	(総数)	(15～64歳)	(65歳以上)	(15～64歳)	(65歳以上)
平成22年	6257	3266	349	2421	221
平成27年	6376	3181	441	2466	288
増減数(万人)	119	-85	92	45	67
5年間の増減率(%)	1.9	-2.6	26.4	1.9	30.3

資料：厚生労働省「雇用動向調査報告」

この表から、平成22年から27年までの5年間における男女別就業者数の増減率に関する、男の65歳以降就業者数の寄与度を計算しなさい。この寄与度の値に最も近いものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 1.5%
- ② 6.9%
- ③ 13.9%
- ④ 24.5%
- ⑤ 77.3%